

CEPEJA 日本ペルー経済委員会

この資料は、リマセンターのウェブサイト（スペイン語版）に掲載されている記事を翻訳したものです。リマセンターウェブサイト www.jetro.go.jp/peru

CEPEJA 委員長及び事務局長とのインタビュー

ルイス・ベガ委員長

アルバロ・バレネチェア事務局長

日時：2007年8月6日

場所：CEPEJA 事務所

1. CEPEJA の重要性について

「CEPEJA の重要性はペルーと日本の間での輸出入及び投資等の二カ国間通商の発展だけではなく、文化的な面も考慮されている事にある。ペルーは過去においてブラジルに次いで二番目に多くの日本移住者を受け入れた国で、年月の経過と共にかなりの数の日系ペルー人が生まれ、これらの子孫が年と共にペルー社会に融合してきている。ペルーには日秘文化会館があり、そこでは料理、舞踊、スポーツ、言語などが普及され、融合の過程の一助となり、国家資産と見なされている。」

「日本との関係を改善するためには、一連のアクションを採る事を考えているが、今回は何故日本との関係を強化する事が重要なのかということについて触れたい。日本経済は世界で二番目に重要だと見なされているので、わが国の製品が日本向けに輸出できるようになる事は、世界中どここの国へでも輸出できる条件が備わった事を意味する。又、日本は過去において低収入国でありながら、教育と努力によって今日の発展を遂げ、現在、自動車産業ではトップクラスを占め、世界最強の経済大国となり、すべてのペルー人が模範とすべき国である。」

2. CEPEJA 復活の理由

「日本との関係では、ペルー側がそのチャンスを利用しなかった点が見られる。私は先ほど、世界における日本経済の重要性について述べたが、わが国の輸産品は（鉱業及び漁業によって構成される）伝統産品が主体となっている。それ

に引き換え日本は付加価値製品の国であるので、私は、この機会に当国の産品をその方向に転換するために努力すべきだと考える。」

アルバロ・バレネチェア顧問は、CEPEJAの目的はペルーの貿易・観光省(MINCETUR)が作成した日本に対して可能性のある分野を特定し、それらの分野の通商関係を増大/強化するための措置を取るのが目的である対日「市場開拓プラン」(POM-JAPON)の内容と一致していると言う。

ルイス・ベガ会長は、CEPEJAを復活させる過程において、JETROには日本国内での傾向、消費者の志向などについて教えて頂き、又、「ノウハウは日本側から示され、我々はこのチャンスを利用してアクションを起すために働く。」など、JETROが果たすべき役割の重要性について述べ、CEPEJAとJETROとの戦略的連携の重要性について強調し、さらにこの企画の開発はリマ市だけに留まるべきではなく、国内各地にも普及されるべきであると述べた。

又、「日本はペルーにおいて、特に鉱業分野に投資を行なっているが、アメリカ合衆国が行なっているように、アジアのみならずヨーロッパを対象とした農産物、その他産品輸出のハブとなる事を目指すことも出来る。ペルーは農産物の多様性、気候条件、日照時間、北半球と反対の四季を持っている事など、この分野の開発に有利な条件が整っているが、先端技術の導入と投資が必要であり、この分野の発展のために日本とのジョイント・ベンチャーが必要な理由はまさにそのためである。」と説明した。

3. CEPEJAの現状

CEPEJAは現在六つの分野を包含する実施協議会を設け、今後6ヶ月の間に50名のメンバーの加入を目指しているほか、手持ち資料の整理、新会員登録簿の開設などを実施中で、そのための総会や普及イベントを行なっている。

CEPEJAは各種機関に提出する目的で調査を行なうために一連のプロジェクトを作成中であるが、それらの成功を期すために現在外務省(MRE)、貿易・観光省(MINCETUR)日秘商工会議所(CCIPIJ)、JETROやアンデス開発公社(CAF)とも連携をとっている。

バレネチェア氏は「CEPEJA は MINCETUR との連携の下に、POM - JAPON の拡充にも参加していると述べた。この拡充は可能性のある企業を確認し、それらの企業が日本市場にアクセスできるよう、指導の過程を設ける企業コーチングであり、この活動は国内各地で実施する予定である。」と述べた。

CEPEJA の委員長は、2008 年には、1 回目はその年の前半にアラン・ガルシア大統領の日本公式訪問と一致した日程を組み、ペルーの企業が日本を公式に訪問し、2 回目はリマ市で行なわれる APEC の会議日程の前後に日本の企業家がペルーを公式訪問すると言う 2 回に亘る公式訪問を目指し、日本商工会議所と密接な連絡を取り合っていると述べた。「2008 年に予定されているこの二つの公式訪問は CEPEJA がその機能を停止していた事もあり、極めて重要であると考えている。又過去数年の間に失われら時間を取り戻すためにも、非公式訪問を行なうことも重要と考えている。これらすべての事業又は提案は常時 CONFIEP (ペルー経団連) に報告している。」と今後の会議の重要性について語った。

4. ペルー及び日本の企業に伝えたいメッセージ

CEPEJA の委員長は通商、投資などのほか、文化的な面や社会的な面なども含め、各方面におけるペルーと日本との関係を改善しなければならないと述べた。

「当国の輸出を増やすことは重要で、そのためには文化的な面や社会的な面での違いを克服しなければならない。また、第三国への交易を可能にするために、わが国に先端技術が導入されるよう、日本とのジョイント・ベンチャーを行うことが必要である。観光セクターなど、可能性を持った分野があるが、他の国々とは異なった優れた点を持っている事を示すことのできる能力を身に付ける事が重要。先ず考えなければならないのは、教育がキーポイントとなること。私は近い将来日本とペルー間の直行便が設けられることを希望している。」

事務局長のバレネチェア氏は各企業が夫々の製品に付加価値を与えることが出来るよう、一連のアクションを採っている、短期間中に朗報があると述べた。

CEPEJA の委員長は、「一つのアイデアとして、対日本市場専一に仕事をするための技術者を育成する「専門教育センター」を設ける事を考えているが、ペルー側人材の競争力をより一層高める手段として、日本の技術者や専門家のご協力を仰ぎたい」と希望を語った。

CEPEJA

CEPEJA 副委員長（貿易部会）とのインタビュー

グラシエラ・フェルナンデス・バカ氏（リマ商工会議所前会頭）

日時：2007年7月23日

場所：JETRO リマ事務所

先ず最初に申し上げたいのは、ペルーと日本の政府に対するメッセージで、両国は、貿易と経済の面だけではなく、文化的な面や社会的な面でもより統合されていなければならないということである。

そのためには、日本とペルーが近い将来、より多くの分野が考慮された自由通商条約を結ぶ事に夢を託している。そして日本 ペルー間の自由通商条約を TLCEPEJA と命名したい。（スペイン語の TLC「自由貿易協定」と CEPEJA をあわせた造語）

しかしペルー側には、安全、インフラ及び社会的な面での関係を深めるためには、やるべきことが沢山ある。

日本企業の皆さんに送りたいメッセージは、「現在、ペルーの企業は労働条件や環境保全も含めた“社会的責任”を重視している」ということだ。

CEPEJA

CEPEJA 副委員長（鉱業・エネルギー部会）とのインタビュー

ベナビデス氏（ブエナビントウラ鉱業会社 社長）

日時：2007年7月31日

場所：ブエナビントウラ鉱業会社本社

ロケ・ベナビデス氏は、ペルーの鉱業分野は全国的に長い経験を持っているので、これが投資を引き付け、国の発展に寄与していると述べ、また、ペルーでは国内や外国からの投資が多く行われていることも、日本の投資家にその有望性を示す明確な証拠となっていると強調した。

日本はペルーにとって双方の経済が補い合えると言う意味で、両国間の関係は欠くことのできない重要な国であるので、CEPEJAの復活はそのための好機会である。両国間の接近を図り、情報交換を行なうためにも、企業家ミッションを派遣することも極めて重要であると述べた。

CEPEJA

CEPEJA 副委員長（農産部会）とのインタビュー

セサル・ペスキエラ氏（コパカバナ農業会社 社長）

日時：2007年7月30日

場所：コパカバナ農業

セサル・ペスキエラ氏は「私はCEPEJAに大きな期待をかけている。ペルーには投資を考えているまじめな人がいます。その事はペルーがすでに農産物輸出国となりつつある事を示している。これからは日本に接近し、発展の道を求めて行く事を考えたい。」と述べた。

さらに、「ペルーでは公共と民間分野が参加して、適切なインフラ設備を開発するために努力している。日本側から衛生、滅菌上の技術援助を受ける事ができれば、強力な商取引関係がもたらされるであろう。」と期待している。

CEPEJA

CEPEJA 副委員長（サービス部会）とのインタビュー

ベルナルド・レーデル氏（レーデル保険会社 社長）

日時：2007年7月26日

場所：レーデル保険会社（株）

ベルナルド・レーデル氏は、CEPEJAの復活は実利的な良い方法であると述べた。「ペルーでは現在安全の面を改善するための努力がされているが、これによって両国の貿易関係の機会が増えて行くことが期待される。当国では保険の金額が下がりつつあるが、これは安全性が改善していることを示している。」と意見を述べた。

「観光業をはじめ、両国に益するサービス業の開発など、いくつかの可能性がある。又、新規の投資が行なわれるにつれ、益々安全性が保たれる必要が生じて来る。現在2008年度のAPECとABACの会議を最大限に活用するための基盤が準備されているところである。」

CEPEJA

CEPEJA 副委員長（漁業部会）とのインタビュー

ウンベルト・エスペシアニ氏（テクノロヒカ・デ・アリメントス（株） 顧問）

日時：2007年7月25日

場所：テクノロヒカ・デ・アリメントス（株）

ウンベルト・エスペシアニ氏は「CEPEJAの復活は喜ばしい事で、両国の関係がより緊密になることを意味する。両国には水産国としての長い伝統があり、企業面での発展のみではなく、社会的な面での発展の機会が生まれるである

う」と述べた。

双方の国は同じ太平洋を挟んでいるので、経験を交換できる可能性がある。日本側からは漁獲物に関する技術と環境管理に関する協力を受ける可能性が生まれ、その反面、ペルー側は、世界中の海で少なくなりつつある水産資源の豊富な海を持っていると述べた。